

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国平均と比べて国語は1.7p上回り、数学は同等、理科については下回っている。学習意欲については、国語、理科で相対的に高いが、数学は低い傾向である。

また、主体的な学習の調整や学習習慣は全国平均と比較すると低い状況である。一方、総合的な学習の時間、学級活動、道徳では意欲が高く、自己有用感も高い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえると、学習するうえで、意欲は高いものの受け身になる傾向がみられる。授業や家庭学習において、自己の学びを調整し、主体的に学ぶことに課題がある。

また、意欲はあるものの学力に結び付いていない教科もあり、教員が教科の枠を超えて指導方法を共有することに課題がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ①授業において主体的な学習活動を充実させ、生徒の学習意欲を高め、家庭での自学自習を指導する。
- ②生徒のタブレットを中心に、興味・関心を高める教材・教具を活用し、個性の発見と伸長を図る。
- ③補習（放課後、長期休業日等）を充実させることで、定着が不十分な生徒や学習進度の遅れがちな生徒の対応を図る。
- ④基礎的・基本的学習内容を定着させるため、授業規律を徹底させ、落ち着いて授業を受ける環境を整え、よくわかる楽しい授業を展開する。
- ⑤生徒が目標を持ち、自己の達成感や成就感が得られるよう英検・漢検等検定試験を受ける機会をつくる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

主体的な学び

視点2

校内研修

視点3

業務改善

板橋区授業スタンダードを徹底し、主体的・対話的で深い学びの実践をととした授業改善をめざす。また、板橋区授業スタンダードS、総合的な学習の時間、委員会活動、行事、家庭学習等で主体的な学びを実践し、「生徒が自ら学習に向かうしかけ」について考え実践する。

また、教員同士でその実践を共有・振り返りをする、教員が主体的な学びを体感する校内研修を実施し、生徒への指導や授業改善につなげる。さらに、授業改善と業務改善をセットで校内研修をすすめ、単に業務を減らすことを目的とせず子どものために、授業改善につなげるために教員の負担感や負担を軽減する方法を教員が自ら考え実践する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

板橋区授業スタンダードによる主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善をすすめるために、管理職から教員に講義をする。日頃の授業において「めあて」「振り返り」を徹底する。

また、板橋区授業スタンダードSとは何か管理職から教員に講義したうえで、教員が選択したテーマによる研究授業を全員が行う。具体的には、Sの実践や総合、委員会活動、行事、家庭学習等で主体的な学びを促す。

小中一貫教育の推進

学びのエリアにおいて、めざす子ども像にむけた意思統一を図り、その手段として「生活の決まり」「主体性を育む授業」について議論を深める。具体的には、研究授業を年に2度見合い、板橋区授業スタンダードや板橋区授業スタンダードSについて学び、情報交換することをおして授業改善に活かす。

また、研修等をおして、施設一体型の小中一貫型学校が区の小中一貫教育のパイロット校となり、その取組みや効果を学びのエリア・全区的に波及する下地を作る。

学校における働き方改革

業務改善と授業改善をセットにした考え方について教員が講義を受け、自分たちで、削減できる業務について考え、検討し、実践する。

また、その実践をおして出てきた課題や成果について振り返り、来年度の教育課程編成につなげる。